

<p>東南アジア環境健康研究ユニット</p>		
<p>リサーチ ユニット名称</p>	<p>Research Unit for Environmental and Health Studies in Southeast Asia</p>	
<p>組織</p>		
<p>氏名</p>	<p>部局・職</p>	<p>主な研究テーマ</p>
<p>(代表者) 渡辺 幸三</p>	<p>理工学研究科 (工学系) ・教授</p>	<p>天敵を使って農業害虫駆除をする生物学的防除技術の開発、蚊へのデングウイルス感染を抑制する細菌技術の開発</p>
<p>(構成員) 日向 博文</p>	<p>理工学研究科 (工学系) ・教授</p>	<p>都市から沿岸域に流出するマイクロプラスチックの動態評価</p>
<p>鈴木 聡</p>	<p>沿岸環境科学研究センター・教授</p>	<p>農地～排水～海にいたる水環境中の薬剤耐性菌の動態評価</p>
<p>岩田 久人</p>	<p>沿岸環境科学研究センター・教授</p>	<p>野生動物のオミックス解析による化学汚染物質の毒性影響の評価</p>
<p>上谷 浩一</p>	<p>農学研究科・准教授</p>	<p>農業が熱帯雨林の遺伝的多様性に及ぼす影響評価、アグロフォレストリーによる農業害虫を抑制する技術開発</p>
<p>計 5名</p>		

<p>リサーチユニット名称</p>	<p>東南アジア環境健康研究ユニット</p>
<p>代表者氏名</p>	<p>渡辺 幸三</p>
<p>〔設置目的〕</p> <p>経済発展や人口増加が急速に進む東南アジア諸国では、過度な農薬の使用、蚊制御のために散布される殺虫剤、マイクロプラスチック汚染等の化学汚染による環境負荷が高まっている。環境負荷の人間環境や自然生態系への影響が懸念されているが、その影響評価や対応技術の開発に必要な研究は大幅に遅れている。本リサーチユニット (RU) の設置目的は、「東南アジア」「環境」「健康」をキーワードとする海外フィールド研究に強い学内の研究グループを集約して、東南アジアの環境健康問題を解決する拠点を形成して研究機能を強化することである。本RUは、1) 影響評価部門と2) 対策技術部門の2部門から構成される。</p> <p>これら2部門は、1) 環境負荷が人間健康や自然生態系に及ぼす影響評価と2) その環境負荷を緩和する生物学的防除 (Biological Control) 技術開発をそれぞれ担当する。</p>	
<p>〔活動計画概要 (概要をポンチ絵を用いて示した上で、簡潔に記載すること) 〕</p> <p>本RUの活動の柱は、1) 国際共同研究の実施、2) 海外サテライトオフィスの設置、3) 大型外部資金の獲得、4) 留学生受け入れと人材育成、5) 国際シンポジウム開催の5つである。RU終了後には、サテライトオフィスを国際共同研究センターに発展させて、研究拠点としての機能を強化する。</p>	
<p>東南アジアで拡大する問題</p> <p>東南アジア 急速に進む人口増加・経済発展 → 持続可能な発展に資する研究が必要</p> <p>農業・殺虫剤 → 環境負荷 (化学汚染) → マイクロプラスチック汚染</p> <p>環境負荷 → 影響 → 人間健康 (薬剤耐性菌の発生、デング熱) / 自然生態系 (生態毒性、遺伝的多様性劣化)</p> <p>本RUのミッション</p> <p>1) 環境負荷が健康と生態系に及ぼす影響の解明 2) 環境負荷を低減する生物学的防除技術の開発</p> <p>2) 対策技術部門: 天敵による害虫駆除、アグロフォレストリー、感染症制御微生物 → 渡辺・上谷</p> <p>1) 影響評価部門: 生態毒性・生物多様性、薬剤耐性菌、マイクロプラスチック → 日向・岩田・鈴木</p> <p>環境負荷 → 評価 → 健康・生態系</p> <p>東南アジア環境健康研究ユニット</p> <p>理工学研究科 (工学系) 渡辺, 日向, 特任助教A 沿岸環境科学研究センター 鈴木, 岩田 住友電工寄付講座 (2019~23年度) 「東南アジアの蚊媒介感染症講座」 渡辺, 特任助教B, 外国人客員教授4名 農学研究科 上谷</p> <p>参加主催: 留学 (キャバピル) (1か月, 3名/年) 奨学金の給付 (優秀で意識高いドクター生の安定的獲得) 東南アジアシンポジウム (毎年1回) 現地カウンターパート (7か国・23研究機関) 現地学生・教員 (意見交換 運営) 現地ステークホルダー (政府・自治体・住民) 東南アジアの7か国・23研究機関の現地カウンターパートと協力して環境健康研究を推進!</p> <p>参加: 国際共同研究 フィールド調査 (参加/利用) サテライトオフィス (非滞在教員・学生 滞在教員 (現地採用))</p> <p>現地大学内に設置して利用 (フィリピンとインドネシア)</p> <p>本RUの活動の5つの柱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際共同研究の実施 2. 海外サテライトオフィスの設置 3. 大型外部資金の獲得 4. 留学生受け入れと人材育成 5. 国際シンポジウム開催 <p>将来構想: テラサール大学 (マニラ) にサテライトオフィスを設置し、RU後に国際共同研究センターに発展</p> <p>日本・フィリピン・インドネシアで国際シンポジウムを毎年開催</p>	